

カジノ産業の本質

——社会的コストと可能性の分析

目次

まえがき	005
第1章 序	017
1.1 商業カジノ産業の概要	018
第1部 商業カジノの経済的利点	
第2章 カジノと経済成長	024
2.1 わかりやすい経済成長モデル	026
2.2 雇用・賃金の増加	027
2.3 資本の流入	029
2.4 税収の増加	029
2.5 輸入代替	030
2.6 “交易”の増加	031
2.7 まとめ	032
第3章 ギャンブル、消費者行動、福利	035
3.1 双方の利益になる取引	035
3.2 消費者余剰と多様性の利益	038
3.3 窮乏化成長の可能性	039
3.4 まとめ	040
第4章 カジノと経済成長に関する誤解	043
4.1 “既存産業のカニバリゼーション”	044
4.2 “工場—レストラン”二分法	047
4.3 移出ベース理論	049
4.4 貨幣流入(重商主義)	051
4.5 まとめ	056
第5章 カジノと経済成長の関係分析	058
5.1 実証すべき問題	059
5.2 グレンジャー因果性に関する一般向けの説明	060
5.3 グレンジャー因果性とパネルデータ	062
5.3.1 グレンジャーの手順の概要	063
5.3.2 パネルデータ向けに手順を修正する	064
5.4 実証結果	068
5.4.1 カジノ産業	069
5.4.2 ドッグレース産業	071
5.5 要点とまとめ	073
第6章 カジノと経済成長の関係を示す最新の証拠	077
6.1 カジノと経済成長の関係—改訂版	077
6.2 最新の証拠	078
6.3 ハリケーン・カトリーナとメキシコ湾岸諸州のカジノ産業	080
6.3.1 湾岸カジノ産業に関する予備知識	081
6.3.2 データとモデル	085
6.3.3 結果	088
6.4 まとめ	090
第7章 カジノが州の税収に及ぼす影響	094
7.1 導入	094
7.2 先行研究の検討	097
7.3 データとモデル	101
7.3.1 データ	102
7.3.2 モデル	103
7.4 結果	109
7.4.1 考察	114
7.4.2 カジノについて結果の頑健性を検証する	115
7.5 要点とまとめ	117
第8章 第1部のまとめ	121
8.1 以降の内容	122

第2部 病的ギャンブルと関連行動

第9章 カジノと飲酒運転による死亡事故	124
9.1 導入	124
9.2 背景と理論上の考察	125
9.3 データと方法	128
9.3.1 カジノと死亡事故のデータ	129
9.3.2 方法論	130
9.4 結果	133
9.4.1 基本的結果	133
9.4.2 頑健性の検査	136
9.4.3 隣接する郡の分析	138
9.5 まとめ	140
第10章 ギャンブルと犯罪、大量飲酒、薬物使用、買春	143
10.1 導入	143
10.2 ギャンブル行動と犯罪の背景	145
10.3 ギャンブル、飲酒、薬物使用、危険なセックスの背景	147
10.4 データとモデル	149
10.4.1 データ	150
10.4.2 モデル	157
10.5 結果	158
10.5.1 ギャンブルと犯罪の結果	159
10.5.2 ギャンブルと大量飲酒、薬物使用、買春の結果	163
10.6 結論	166
第11章 ギャンブルと注意欠陥・多動性障害	171
11.1 導入	171
11.2 データ	173
11.2.1 ギャンブル行動の変数	174
11.2.2 ADHD症状の変数	175
11.3 モデル	178
11.4 結果	179
11.5 考察とまとめ	181
第12章 第2部のまとめ	185

第3部 社会経済学的側面から見たギャンブルの負の影響

第13章 ギャンブルの社会的コスト	188
13.1 本章の概略	189
13.2 “社会的コスト”の経済学的定義	189
13.3 社会的コストのモデルをつくる	191
13.3.1 適用した定義	192
13.3.2 社会的コストの説明としての窃盗	193
13.3.3 外部性と社会的コスト	194
13.3.4 ギャンブルの社会的コストとされているもの	195
13.4 正当な社会的コスト	197
13.4.1 法的コスト	198
13.4.2 治療コスト	199
13.4.3 精神的コスト	200
13.5 不適切に社会的コストと定義されているもの	201
13.5.1 資産の移動	201
13.5.2 回収不能金	203
13.5.3 救済コスト	203
13.5.4 政府の複利支出	204
13.5.5 移動のモデルをつくる	206
13.5.6 産業のカニバリゼーション	207
13.5.7 貨幣の流出	208
13.5.8 生産性の損失	208
13.5.9 窃盗	209
13.6 まとめ	209
第14章 社会的コスト分析の問題	215
14.1 導入	215
14.2 社会的コストを評価する際の問題点	216
14.2.1 反事実シナリオ	216

14.2.2	共存症	217
14.2.3	ギャンブルによる損失の調査	219
14.3	社会的コストへの異なるアプローチ	222
14.3.1	疾病コストのアプローチ	223
14.3.2	経済アプローチ	224
14.3.3	公衆衛生アプローチ	224
14.3.4	コンセンサスは得られるのか	224
14.4	未確認、未測定 of 社会的コスト	228
14.4.1	規制の影響	228
14.4.2	ロビー活動	231
14.4.3	政治的費用の要約	234
14.5	まとめ	234
第15章	ギャンブルは“非生産的な活動”か	238
15.1	導入	238
15.2	批判	238
15.3	サムエルソンの経済書	240
15.4	どうしてギャンブルはDUP活動ではないのか?	241
15.5	DUPとレントシーキング	242
15.6	まとめ	244
第16章	カジノと犯罪:論文の再検討	246
16.1	導入	246
16.2	理論上の背景	247
16.2.1	犯罪の経済学	247
16.2.2	日常活動理論	247
16.2.3	ホット・スポット理論	248
16.2.4	経済発展	249
16.3	測定の問題	249
16.4	実証的証拠	251
16.4.1	“初期の”研究	252
16.4.2	“最近”の研究	253
16.5	鍵となる2つの研究	253
16.5.1	グリノルズ&マスタード(2006年)	254
16.5.2	リース(2010年)	255
16.6	未解決の問題	257
16.7	まとめ	259
第17章	カジノと商業用不動産	261
17.1	背景	261
17.2	カジノの営業状況と不動産価値	262
17.3	データと研究方法	264
17.4	結果	270
17.5	まとめ	274
第18章	ギャンブル産業内の関係	279
18.1	導入	279
18.2	先行研究の検討	280
18.3	データ	283
18.3.1	ギャンブル規模変数	283
18.3.2	隣接州の変数	287
18.3.3	人口動態変数	289
18.4	モデルと結果	291
18.4.1	結果の考察	295
18.4.2	方程式間の制約の影響	297
18.5	政策について	298
18.5.1	税収	299
18.6	まとめ	300
第19章	第3部のまとめ	305
第4部 まとめ		
第20章	過去と未来	308
20.1	導入	308
20.2	ギャンブル研究の歴史	308
20.3	ギャンブル経済学の今後	309

20.4 まとめ	312
付録(補論):ミクロ経済学入門	314
アメリカ合衆国主要部地図	326
参考文献	329